

説 教

Bilingual 説教

北浜チャーチ

2024年1月28日(日)

黒田 禎一郎

主 題:「でも、してみましょう」

—主に出会う人—

テキスト:ルカ福音書 5章1—5節

はじめに

- ・おはようございます。

- ・私たちの人生では、さまざまな「出会い」というものがあります。出会いによって新しい関係は生まれます。私は妻と出会い、そして結婚に導かれるという関係となりました。そして、早いもので50年の年月が経過しました。
- ・皆様の人生もきっと同様に、どこかで、誰かと出会い、その出会いが人生を左右するほどに影響を与えることがあると思います。
- ・ガリラヤ湖畔の漁師であったシモンも、イエスに出会いました。その出会いによって、彼の人生は大きく変わりました。彼はガリラヤ湖で魚を取る漁師でした。
- ・しかし、イエスとの出会いによって、彼は漁師の職を捨てて、イエスの弟子となり、使徒となり、神の福音を広く宣べ伝えるすばらしい大伝道者となりました。出会いが人の人生を変えます。
- ・今日、私たちはシモンとイエスとの出会いから、神のお導きを覚えたいと思います。

大切なポイント

1. イエスのことば

- ・シモンがイエスに出会った場所は、ガリラヤ湖畔でした。漁師たちが仕事を終えて、網を洗っていた時でした。
- 5:2 岸辺に小舟が二艘あるのをご覧になった。漁師たちは舟から降りて網を洗っていた。
- 5:3 イエスはそのうちの一つ、シモンの舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして腰を下ろし、舟から群衆を教え始められた。
- ・すこし考えてみて下さい。

世界を創造された神の御子イエスが、ガリラヤ湖畔の一漁師に舟を貸してくれ、と言われました。そして、沖へ漕ぎだしてくれと頼まれたことです。何ということでしょうか。

- ・頼まれたということば、ドイツ語ルター訳聖書では “bitten”（懇願するの意味）と訳されています。この言葉は、乞食が物乞いをする時に使う言葉です。強い願望を表す表現です。
- ・神は私たちの人生においても、神の方から近づいてくださり、身を低くして頼まれることがあります。なんとという恐れ多いことでしょうか。シモンの場合、そうでした。しかしその時点では、シモンは何も知りませんでした。彼の応答はどのようであったのでしょうか。

2. シモンの応答

1) イエスのことば

- ・イエスのことばに注目してください。

5:4 シモンに、「**深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。**」と言われた。
- ・イエスは今度、命令形でシモンに言われました。イエスが「舟を貸してくれ」と頼まれたことと、「**深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい。**」ということ。つまりこの行間（イエスのお願いと命令）について、聖書（著者ルカ）は何も記していません。
- ・もし仮に、シモンがイエスのことばに従わなかったならば、その後のストーリーは展開しませんでした。
- ・ある方が、「**神は私たちの人生において、神の方から身を低くし、頼まれるように近づいてくださることがある**」と言いました。その時私たちは、いったいどういう応答をするのでしょうか。
- ・ここに、私たちは大切な原則を見ることができます。シモンはイエスのおことばに「従順」であったことです。それゆえ、イエスは彼に；

⇒ 大量の魚が取れるという「祝福」（結果）を与えられました。

5:6 **そして、そのとおりにすると、おびただしい数の魚が入り、網が破れそうになった。**

5:7 **そこで別の舟にいた仲間の者たちに、助けに来てくれるよう合図した。彼らがやって来て、魚を二艘の舟いっぱい引き上げたところ、両方も沈みそうになった。**
- ・しかし、シモンは従順というステップを踏む前に、一言言いました。

2) シモンの言い訳

5:5 すると、シモンが答えた。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことばですので、網を下ろしてみましよう。」

- ・ここがシモンの性格でしょう。漁師であったシモンは、自分の漁師としての経験をもってきました。自分の経験を述べることは、誤りであったでしょうか？ いいえ、もし私がその場にいたなら、私もシモンと同じように言うに違いありません。人間は自分の経験、自分の能力、自分の才能に基準をおくからです。
- ・では、いったい何が問題でしょうか？
 - ⇒ それはイエスがそこにおられるのに（臨在）、シモンは自分の経験を持ちだすことは不要であったことです。主が臨在される場所、そこは神の国が実現するところです。
- ・どうぞ、誤解しないでいただきたい。人間的経験は不要と、言っているのではありません。神は人の能力・才能を用いられます。しかし、それよりも大切なことはイエスのことばに従順な器を通し、神は栄光を現わされます。
- ・ここに私たちが、覚えなければならぬ大切な教えがあります。人間的経験、能力、才能も確かに大切ですが、さらに大切なことは、主がここに居てくださるならば、主がお語りくださるならば、みことばに従順であることです。

{例 話}
- ・北浜チャーチは、おそらく幸いな教会であると思います。なぜなら、いろいろな背景をもつ信仰の友が集まり、「開放性」と「個人を尊重する」群れであるからです。そして教会には種々の賜物、才能、能力に恵まれた方々がいます。
- ・そもそも北浜チャーチは、1990年私の「ビジネス講演会」からスタートしました（詳細は記念誌参照）。そして教会は、大阪都心の「センター・チャーチ」としての務めを果たしました。最近「ローカル・チャーチ」に、さらに「国際教会」へシフトしつつあります。
- ・一方、私の海外宣教の働きも1981年に始まりました。私は「ミッション・宣教の声」を通し、既に43年以上宣教してきました。教会内外から、多くの方々の祈りと支援をいただけてきました。国内に、そして国外に向かって発信してきました。本当に感謝しています。

- ・今振り返ると、①ビジネスマン伝道、②海外宣教、③教会建設！
⇒ 3本柱でした。これは人間の力、能力ではないこと明らかです。
- ・教会で、誰が、何をしたという人間的なものではありません。まさしく北浜チャーチは、神が始め、神が建てられたからです。そこには確かに主が臨在されたことは疑いありません。ですから、私たちは人間的な能力や力を誇るものではありません。ただ主だけを賛美し、感謝し、礼拝する教会です。
- ・そこで教えられることは、シモンのことばです。
シモンは言い訳をしましたが、それでも、イエスのことばに従いました。

3) 「でも、という信仰」

5:5 するとシモンが答えて言った。

「でも、おことばですので、網を下ろしてみましよう。」

- ・シモンは、「でも」と言いました。この言葉は「しかし」という言葉です。やや迷いが見られます。あるいは疑いもみられます。しかし、それでも……という表現です。つまりシモンは、この時「でも」、という信仰でした。
- ・彼は「おことばどおり」と言いました。

⇒ 原語では、on your word (英語) auf Dein Wort (独語)

シモンは、イエスの命じられたお言葉の上に信頼の網をおろしました。

⇒ それが「信仰」です

彼は、このように「でも」と言いました。そしてイエスのみことばの上に、信頼の網を投げ、従順な行動をとりました。そして祝福がついてきました。ここに、神の祝福の原則をみることができます。

- ・皆さん。「でも、網をおろしてみましよう」という信仰で、従順に従ったとき、主は祝福くださいました。私たち北浜チャーチは、今後も主を信頼していきたいと願います。シモンは、イエスのことばに従い、網をおろしたところ、大漁の魚が取れるという祝福を得ました。

5:8 これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して言った。「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間ですから。」

- ・その時、
 - ① 彼はイエスがどんなお方か分かりました。そして、
 - ② 自分はなんと小さな、愚かな者であるかを悟りました。
 ⇒ これが生ける主に出会った人の姿です (自分の姿が見えた)

ま と め

主 題：「でも、してみましよう」

—主に出会う人—

- 私たちはシモンと何も変わらないような者でしょう。
しかし、神はシモンを選び、祝福されました。私たちは、祝福の原則を見ることができます。⇒ イエスのことばへ従順

5:5 すると、シモンが答えた。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことばですので、網を下ろしてみましよう。」

* God bless you !